



ベゴニア

～「わかった」「できた」「来てよかった」
の笑顔あふれる補習校～



来年度の新入生説明会がありました

2025（令和7）年2月8日

文責 校長 佐藤 博

2月に入ってよいよ本年度のゴールも見えてきたのかなという感じがします。補習校35回目の授業日は、昼から「令和7年度新入生説明会」を実施しました。13時からまずは多目的室にて全体説明を実施したのですが、約25家庭の方が参加、準備したイスが足りないくらい多くの方が来てくださいました。ここでは、フラッセル日本人学校とはどういった学校なのか、そもそも補習校とはどのような目的で作られているのかといった話から始まり、本年度の学校目標や日課表、年間行事等の説明について行いました。特に保護者の皆さんにお願いしたのは、裏にある「家庭と学校で共育！（共に育て、共に育つ）」のところです。何度もお話ししているように、わずか年間40日の授業日だけで、日本と同じような学力をつけていこうと考えると、学校だけでは到底無理です。授業時数も日本の約5分の1になるわけですからそこは家庭の協力なしでは進めることはできません。学校と家庭が、担任と保護者が一緒になって、子どもたちの教育を進めていく必要があります。説明会ではその部分について、家庭での協力をお願いしました。加えて、子どもたちには今年いろいろな場面で問い続けている「補習校に来る目的や意味」についてももしっかり家庭でお話をしてもらおうように話しました。休みの日の土曜日にわざわざ学校に来るのですから、何らかも目的がないと本当に来るのが嫌になってしまいます。土曜日がくると憂鬱・・・なんてことになってしまうと、この学校に来る意味がなくなってしまいます。毎回、子どもたちとしっかり話をし、今日できるようになったこと、先週末と比べて伸びたところをしっかりと褒めてあげながら、子どもたちのモチベーションをどんどん上げてあげてください。「補習校が好き」「補習校に行きたい」と心から思える子どもたちに育ててほしいなと願っています。

4月、新しい仲間が入学するのを心待ちにしています。

掲示物もどうぞご覧ください

学年末が近づくにあたり、様々な掲示板には子どもたちの作品が掲示してあります。補習校はもちろんですが、全日の子どもの掲示物を見るだけでも、いろいろと勉強になることがあるようです。右の写真は1階の1、2年生の教室前の掲示板の様子です。それ以外にも校舎内には補習校・全日制の多くの掲示物がありますので、ぜひ参考までにご覧ください。



入学説明会資料「家庭と学校で共育！～共に育て、共に育つ～」

家庭と学校で「共育」！（共に育て、共に育つ）

① 日本語を使い国語・算数（数学）を、日本の教科書を使って学習します。

そのために、

- (1) 子供が先生の指示を日本語で理解できること。
- (2) 家庭で親が学習のサポートができること。

が、補習校入学の条件となります。

補習校教育は、国語重視の方針のもと、日本の教科書を使って、同年齢の日本の子供たちと同じだけの国語・算数（数学）の基礎学力をつけることが目的です。そのためには子供たちの日本語力が欠かせません。

しかし、本校は日本語の語学学校ではありません。また、土曜日に補習校へ通わせるだけでは、国語（日本語）力は決して身に付きません。保護者が毎日子供に根気よく国語（日本語）学習につきあい、最大限のサポートをすることが不可欠です。サポートができない場合、子供にとって補習校に通うことが大きな負担になるケースもあります。

② 家庭でもいつも日本語で接してください。

子供を取り巻く日本語環境は極めて限られています。子供の日本語力を高めるのは、家庭で出来るだけ多く、日本語にふれさせていることが大切です。補習校の授業内だけでは、決して身に付きません。

③ 子供の立場に立って、子供の気持ちに寄り添ってください。

ベルギーに来て間もない子供にとっては、最初は現地校・インター校にしっかり慣れることが大切です。また、現地生まれ・育ちの子にとっては、補習校で初めて日本語環境の中で国語・算数を学習します。

子供たちは2つの学校に通い、慣れない言葉・学校環境の中で一生懸命がんばっています。子供の話に耳を傾け、子供の気持ちに寄り添ってあげてください。そして、現地校・インター校や補習校での学習で、“できていること”“しようとしていること”を積極的に褒めることで、子供たちを勇気づけてあげてください。

④ 「家庭は第2の教室、保護者は第2の担任」

子供を励ましながらか、家庭学習（宿題など）に関心をもってください。補習校で行う国語と算数（数学）は、年40日の授業時間だけでは決して十分ではありません。したがって、習ったことを定着させるための宿題を必ず出すことになります。確実に基礎を身に付けるためには、家庭でのサポートが不可欠です。低学年で国語力（漢字の読み書き）を不十分なままにすると、高学年、中学部に上がるにつれて、本人の学習への負担、意欲減退が生じがちです。子供の気持ちにたって励ましながらか、あきらめない気持ちを育ててください。

⑤ 補習校では日本的な教育方針で子供たちを育みます。

週1回といえども、補習校は日本的な教育方針つまり日本の学校文化を基礎にした、子供たちの「人格形成の場としての学校」でもあります。協力し合う心、マナー、勤勉さを養いたいと考えています。

⑥ 補習校へ通う目的意識をしっかりとらせてください。

補習校に通う目的・意味を親子で常に確認し合っていることが大切です。親にもしっかりとサポートしていく覚悟が必要です。また、子供の日本語力にも大きな差があります。必然的に学習力にも違いが出てきます。将来の進路も違いがあります。しかし、どの子もそれぞれに目的をもって、互いに頑張っているんだということを、保護者の方も子供たちに伝えてください。親の広い考えが、子供にも良い影響を与えます。

⑦ 補習校の「学校づくり」に、深いご理解と温かいご協力をお願いします。

成り立ちの趣旨、人員、予算面から、保護者の方の理解と支えがあってこそ成立しているのが補習校です。補習校と家庭とが力を合わせて、子供の補習校での教育を担っていきます。

2月15日13時半、漢字検定を6年教室で行います

漢字検定の申し込み、ありがとうございました。今回、20名以上の申し込みがありましたので、実施する教室を2階の奥にある6年生教室にしたいと思います。いつもの3年教室ではありませんので、お間違えなく・・・なお昼食等も、ここの6年教室でとってもらっても構いませんが、ごみ等は持ち帰るよう、よろしく願いいたします。漢字検定に挑戦する皆さん、ぜひ合格できるように頑張ってくださいね。